

G 8 開発大臣会合 共同記者会見（記録）  
（4月6日（日） 於：三田共用会議所）

外務省国際協力局  
総合計画課

高村大臣発言

（1）昨日と本日の2日間、G 8 開発大臣会合を開催した。G 8 の開発協力担当大臣とEUの代表が参加し、自分が議長を務めた。また、新興援助国やアジアの主要国、国際機関を招いた拡大セッションも行った。はるばるお越し頂き会合に有意義な貢献を頂いた各国・機関の代表の方々に、深く感謝申し上げる。

（2）今日、我々は、世界の多数を占める途上国の開発において大きな課題に直面している。今年は、ミレニアム開発目標の達成に向けた中間の年だが、多くの分野や地域について、目標の達成が困難であることが危惧されている。また、気候変動は、すでに現実の問題として途上国の人々に深刻な影響を与えている。

（3）特に食糧高騰の問題は、開発全般、その中でもアフリカに対して深刻な影響を及ぼす問題として国際社会が真剣に取り組むべき問題であることに見解が一致した。

（4）自分は、このような状況にあって、G 8 各国が、途上国が抱える課題に真剣に向き合い、知恵を結集し、効果的な開発援助の強化に一致して取り組む決意を示さなければならない、との思いで今回の会合に臨んだ。この2日間を通じ、私は他の参加者も全く同じ思いであったことが分かった。自分としては、日本のODAの減少傾向を底打ちさせ、反転を目指す決意である。

（5）会合での議論については議長総括をご覧頂きたいと思うが、私が重要と感じた点を3点述べさせて頂きたい。

（6）一つ目は、G 8 各国が開発援助を強化する決意を再確認したことである。

世界の貧困削減や保健、水、教育の問題で前進を見るためには、引き続きG 8 諸国が質、量共に開発援助を充実させていく必要がある。我が国は、このような取組において、個人やコミュニティに着目した「人間の安全保障」の視点や、幅広い関係者とともに「全員参加型」協力を進めていくことを提唱しており、今回の会合で広く理解を得られたものと思う。

気候変動の悪影響に対して脆弱な途上国への支援については、我が国の「クール

アース・パートナーシップ」をはじめ、途上国の緩和及び適応策を支援するためのG8諸国のイニシアティブに対して歓迎の意が表明された。

昨日、自分は、会合の合間に、インドネシアのスリ・ムルヤニ財務大臣と会談し、両国がこの夏までに「クールアース・パートナーシップ」に基づく具体的な支援をまとめるべく作業を加速することに合意した。

(7) 第二点として、新興ドナー、民間財団、エイズ等についての世界基金など特定課題に着目した基金といった新たな開発協力の担い手やNGOの重要な役割が認識された。このような新たな担い手との間で、経験を共有し、南南協力や新興ドナーの援助実施能力向上への協力など、実際的かつ具体的な協力を推進する重要性が確認された。

自分は、柳明桓(ユ・ミョンファン)韓国外交通商部長官との間で、新興ドナーとの協力強化のための会合を今月23日に日本と韓国が共同で開催することに合意した。

(8) 第三点は、開発途上国の開発における経済成長の重要性が確認されたこと。これは、アジア諸国の発展において実証されている。第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)は「元気なアフリカを目指して」をテーマに、成長の加速化を重要な柱の一つとしているが、今回の会合で経済成長の重要性が確認されたことは、意義のあることと考える。

また、経済成長を促進するために民間セクターの役割が特に強調され、各国から、現在行われている色々な官民パートナーシップの取組が紹介された。

(9) 本年は、5月にはTICAD IV、7月には北海道洞爺湖サミットと、開発が重要な議題となる国際会議が日本で開催される。さらにその後も、9月のガーナでの援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム、国連総会の機会を利用したミレニアム開発目標に関する会合、11月末のカタールでの開発資金会合など、開発関連の重要な国際会議が続く。今回のG8開発大臣会合における議論が、このような一連の会議への有益な貢献となることを期待している。

以上